

2020年12月20日

『関東・九州ブロック育成センター マンツーマン推進講習会』

日本バスケットボール協会 マンツーマン推進プロジェクト
牧野広良

1. マンツーマン推進の根幹

(1) 個の育成: 個人のオンボールのオフense・ディフェンス、オフボールのオフense・ディフェンスを身につけ向上させること。

① オンボールオフense: 個人で破っていく力、得点を取る力

・ショット・ドライブ・パス・1対1の駆け引き

② オンボールディフェンス: 個人で守りきる力

・ショット・ドライブを止める(インラインを守り続ける)

③ オフボールオフense:

・スペーシング(どこにいるか、どこへ動くか)

・タイミング(いつ動くか)

④ オフボールディフェンス:

・ポジショニング(マークマンをノーマークにしない、ボールマンディフェンスを助ける)

・ビジョン(ボールとマークマンを常に捉える)

・予測する力

(2) 日本のバスケットボールの強化育成

(3) 日本バスケットボールの活性化に繋がる事業

* 以上「マンツーマン推進における判定基準の考え方および目指す目的の再確認」より

2. マンツーマンディフェンスの基準規則の補則解説

(1) マッチアップ

・3ポイントラインがない場合は「目安」という文言を生かす。

・手のサイン等があっても「明確に」という文言が当てはまらない場合、コミッショナーが「マンツーマンディフェンスをしていない」と判断する場合がある。

・マッチアップエリア外において、スクリーンを外すときのオンボールディフェンス 1.5メートル以内は旗の対象にしない。マッチアップエリア内であれば、旗の対象となる。

(2) オフボールディフェンス

・ボールとマークマンの位置を確認し自分のポジションを確定するための首振りには認められるが、ポジションを固定(動かない)しての首振りは「常に」という文言に反する。

・2線(ワンパスアウェイ)と3線(ツーパスアウェイ)のディフェンスに距離の指定はないが、他の項目に触れる場合は違反の対象となる。

- ・「予測に基づいてボールを持っていないオフェンス側プレーヤーをトラップすることは許される」とは制限区域内にオフェンスがいる時点のものを指し、オフェンスが制限区域外にいるときには該当しない。
- ・オフェンスが明らかなアイソレーションの時は、自分のディフェンスを少しでも捉えていればこの限りではない(常に移動しなければいけない、ではない)。

(3) スイッチ

- ・スイッチ後はディフェンスのマッチアップの意識確認が大切となる。

(4) トラップ

- ・ボールを受けた瞬間に「トラップ」の状況になっていなければならない。
- ・ディフェンスの距離ではなく、オフェンスの距離が 2~3メートル以内である。

3. コミッショナー運用関係

(1) マンツーマンコミッショナーの任務

- ①コミッショナーは違反行為が生じた際に「黄色(注意)」の旗を振り、そのチームのベンチを指し、コーチ・選手の対応を確認する。
- ②改善しない場合は、「赤色(警告)」の旗を上げ、ゲームクロックが止まった際に審判に伝達し、TO席の前で両チームのコーチに対して内容を簡潔に説明する。(審判により、コーチに警告が与えられる)

※「改善」とは「選手のプレーについての改善」である。

※黄色旗から赤旗への移行の目安は「5秒程度」とする。ただし悪質な違反行為とコミッショナーが判断した行為については黄色旗を振らずに赤旗から振ってよい。また、黄色旗を振っているときに即座に赤旗を振ってよい。

- ③同じチームの2回目以降の違反行為に対しては、1回目と同様にゲームクロックが止まった際に審判に伝達し、TO席の前で両チームのコーチに対して内容を簡潔に説明する。(審判により、コーチにマンツーマンペナルティが与えられる)

- ④「赤色(警告)」の旗が掲げられた場合、コミッショナーはボールの保持が変わった時およびボールがデッドになった時に速やかにホイッスル・ブザー等で審判に知らせてゲームを止める。オフィシャルはホイッスル・ブザー等と同時にゲームクロックを止める。ゲームを止めた後は、赤旗に関する処置を行う。

※ 具体的な対応

- ・防御側がボールを獲得した時は、ゲームを止める。
- ・攻撃側が得点を取った時は、得点を認め、ゲームを止める。
- ・攻撃側がオフェンスリバウンドを取った時は、まだボール保持があり得点を取る機会が継続しているためゲームは止めない。
- ・審判が笛を鳴らした時は、ゲームを止める。
- ・プレーが止まるまでに起きたことは全て記録する。

⑤悪質な違反行為については、「黄色(注意)」の旗を振らずに、「赤色(警告)」の旗を上げることも可とする。(試合終了間際など)

⑥体力、技術不足により故意ではない違反行為が発生する可能性もあるため、違反行為の判定にあたっては留意する。

⑦ピリオド間、ハーフタイム等も必要に応じてコーチ・審判員とコミュニケーションを図り、円滑に試合を進めるよう努める。

(2)審判員の任務

(3)大会主催者の任務

4. マンツーマンコミッショナーの赤旗対応

5. リーフレット

6. チェック表

7. 具体的事例研修

* 時間があれば資料 I を使って

8. 質疑応答

* 可能な範囲で